

親のやる気 子のやる気

〇〇28



20年以上も前でしようか、総中流社会という言葉がありました。その後バブルが崩壊、いつしか格差社会に突入し、社会は二極化してきていると言われるようになってきました。

教育も例外ではありません。ここ数年、特に青森県の高校入試難

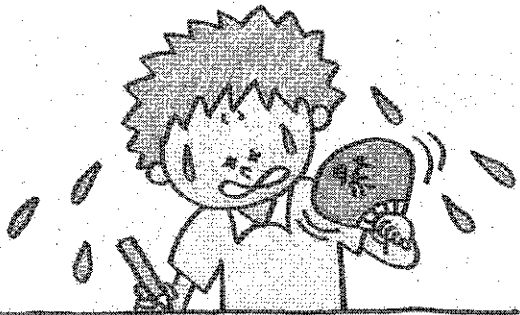
未来

易度一覽表でも、成績の上位半分に普通科、下位半分に実業科が並び「二極化」が顕著になってきています。

将来就きたい仕事か明確なら良いのですが、安全、安心、便利な生活の中で育ってきている子どもたちは中3の夏休みになっても「志望校はまだ決まっています」「将来はまだ決まっています」と中八九答えません。

努力話よりも苦勞話を

複雑さが想像力の本質に



by yoriko

先日、大学入試の推薦でデザイン・アート系の学部を志望する親子と面談しました。お母さまは「この子はまじかを選好することになるので、あと1年は『将来』を先送りすることできます。しかし、実業高校を選好せざるを得ない場合、例えば工業系なら機械科、電気科、電子科、電子機械科、情報技術科、農業系なら生活科、動物科学科、植物科学科、生物生産科、などの学科から早急に『将来』を決めなければなりません。社会に出たら学歴で乏しく、昔よく聞かされた「ろくに学校へも行かず…」に続くような『苦勞話』の情報も乏しくなっているような気がします。子どもたちの将来像のヒントは、実は自分のルーツこそあるのではないのでしょうか。親の職業、親のやりたかったこと、なぜそれをあきらめたのか…。子どもが自分の将来に真剣に向き合った時、伝える機会を持ちたいものです。親の話を通し、『単純』に見えていた日々の繰り返しの中で、子どもたちは『複

はなく努力雑」という面白さを味次第だといわい、その経験が想像力の本質となっていくでしょう。

子どもは必ずしも親の思い通りに育つものではない、ゆとりではありません。しかし、子どもにはそれぞれ世の中の役割が必ずあります。そして、いつの日か、世のため人のために役立ちたいと将来のイメージを膨らませます。親の心遣いが子どもの姿に表れるのかもしれない。(畑山篤志学塾長)



「忙しい朝読めます」

7月末にあって教育現場で活日(教育に新大会で、新社の読み方を伝が開かれた。していないと「新聞を取

は？」ラジナリティーで原恵美さん全の参加者に尋挙げたのはわ人だった。

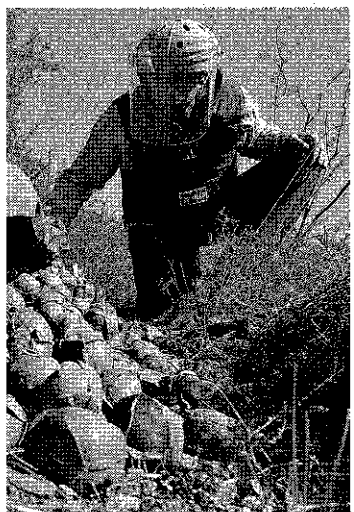
松原さんが見出しだけを「文字が大きなので、しゃっキャッチできに2秒、理解秒しかかからばかりの頭で

教育

ニュース なぜなに

ウのふざざなどを意味する英語です。クラスター弾は、飛行機から落とすと、ブドウのつぶのよう

に小さな爆弾が散らばって爆発、広い範囲の人を殺し、物をこわします。第2次世界大戦から使



ライフル弾が投下した

用されるようになり、最

止する条約を提案。日本